

## 論文の内容の要旨

氏名：青木 千賀子

博士の専攻分野の名称：博士（国際関係）

論文題名：ネパールの女性グループによるマイクロファイナンスの活動と  
ソーシャル・キャピタルに関する研究

### 1. 研究の目的

本研究の目的は、ネパールの「ダリット (Dalit: 抑圧された者の意)」とよばれる、不可触民としてカースト制度の最底辺に置かれた被差別集団の女性たちの社会的地位向上と、社会の階層システムを基礎とした宗教や慣習に基づく社会規範、ならびに民法典の女性蔑視の思想による社会的差別構造を解消するべく社会システムの構築の必要性に着目し、ダリット女性達の地位向上の方法を明らかにすること、また、マイクロファイナンス (Microfinance: 小口金融) の活動を通して、ソーシャル・キャピタル (Social Capital: 社会関係資本) による人々の協調行動を活発にすることによって、地域住民志向の効果的なコミュニティ協働モデルの構築と活用について明らかにすることである。

すなわち、ダリットの女性が、経済的な「所得貧困」のみならず、人間の基本的な権利や機会が保障されていない「人間貧困」から脱却し、自らの地位向上を目指すための課題について、フィールドワークを通して女性グループの活動、マイクロファイナンスの運用実態、およびソーシャル・キャピタルとのシナジー効果などについて明らかにすることである。

国民の約 8 割がヒンドゥー教徒であり、地理的、文化的、民族的な多様性をもつ社会環境の中で、カースト制度の最底辺に位置するダリットの解放運動から見えてくるネパールの社会的な歪、ジェンダーに基づく複合差別、職業などに起因した社会構造の問題を分析し、人間開発、社会開発について知見を得ることを目的としている。

### 2. ネパールの地理的、社会的・文化的背景 —ヒンドゥー文化とカースト制度—

ヒマラヤに位置するネパールは、インドと中国に陸地で囲まれ、中国との国境沿いの山岳地帯、インドとの国境をなすタライ平野地帯、そしてその中間の丘陵地帯からなる。ネパールの多様な民族と文化は、こうした地形的特徴と気候的環境との違いから育まれたが、それは文化の宝庫であると同時にまた、政治・経済をはじめ教育など多くの面で地域的格差を増大する原因ともなってきた。

ネパールでは、2008 年に 240 年間続いた王制から制憲議会に政治が代わったが、今なお政治的混迷は続いている。また、国民の約 8 割がヒンドゥー教徒であり、カースト制度 (1963 年に差別条項は法で廃止) という社会の階層システムに基づく社会規範や、「マヌ法典」の女性蔑視の思想 (女性の劣等性や不浄性を説く) 等が、今なお生活文化の中に息づいている。貧困は、カースト制度による階層性、人種や民族および、性に基づく、社会的不平等の問題が関与している。そのカースト制度の最底辺に置かれたダリットの女性は、ダリットであることと女性であることのゆえに複合差別を被って、人間の基本的な権利や国や社会から公平に扱われる権利も得られないできた。生活文化に深く刷り込まれた差別化は、社会開発の深刻な阻害要因となっている。

### 3. 研究の方法

研究方法は、ネパールにおけるフィールドワーク (女性グループによる MF 活動の聞き取り調査: 2009~2013 年) から得た結果をもとに、社会的・文化的文脈を背景に、SC の定義を「心の外部性を伴った信頼・規範・ネットワーク」(稲葉 2007:4-5) とし、その概念を利用し、MF の活動が参加型社会開発の手段としてどのような役割や効果を発揮するのかを検討した。

具体的には、世界銀行のワーキンググループである SCI (Social Capital Initiative) が開発した SC の「指標化」と「計測」の概念を用いて SC を分類・類型化(坂田 2002: 9-15) し、さらに SC の計測ツールで

ある SOCAT (Social Capital Assessment Tool) を用いて、吉田秀美 (2002 と Dowla (2001) が示した概念的枠組みに従い、記述的事例分析を行う。

#### 4. 論文の構成

本論文は、序章、第1～6章(本論)、終章により構成されている。

##### 序章

第1章 先行研究のレビューと本研究の論点

第2章 ネパールにおける社会開発の取組みと社会的・文化的背景

第3章 ネパールの女性グループによるマイクロファイナンスの活動実態調査

第4章 ネパールのバディカースト(売春カースト)の実態と差別構造の解消への課題

第5章 マイクロファイナンスの活動と女性のエンパワーメント

第6章 社会開発におけるマイクロファイナンスの活動とソーシャル・キャピタルとの関係

##### 終章

序章は、ネパールの地理的、社会的・文化的背景(ヒンドゥー文化とカースト制度)、論文の目的、研究の方法および論文の構成について述べる。

第1章は、「先行研究のレビューと本研究の論点」として、社会開発におけるマイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルのシナジー関係に関連する研究の動向を踏まえ、この分野における本研究の位置づけを行う。

第2章は、本研究を行うための基盤として、「ネパールにおける社会開発の取組みと社会的・文化的背景」を取り上げる。ネパールのカースト制度を軸としたヒンドゥー文化とジェンダー問題の現状、人身売買の実態と防止対策の課題、「ジェンダーと開発」とNGOの活動、人間開発と教育について資料分析を行い、第1節～第4節に分けてネパールの社会・文化についての主要な課題を概観する。

第3章では、フィールドワークによる「ネパールの女性グループによるマイクロファイナンスの活動実態調査」において、経済格差を是正するために分けられている5つの経済開発区(極西部、中西部、西部、中央部、東部)ごとに実施された女性グループの聞き取り調査の結果を示す。カーストの最底辺に置かれた被差別集団であるダリットを中心とする女性グループによるマイクロファイナンスの活動について、2009年から2013年の間に筆者がネパールで行った調査結果を詳述する。

NGOなど諸団体で活動している関係者や、インドとの国境で人身売買防止のため看守として働いているスタッフ、一般の人たちに対する聞き取り調査の結果も報告する。

調査では、マイクロファイナンスの活動が、ネパールの各地で生活の安定や所得向上に効果的に活用されているかどうか、差別構造の解消に寄与しているのか否か、ヒンドゥー教文化の陋習といわれている慣習に対して意識改革の啓蒙活動に貢献しているかどうか、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)を醸成することに役立っているのか否かを明らかにする。

第4章の「ネパールのバディカースト(売春カースト)の実態と差別構造の解消への課題」では、ダリットの一つのカーストであるバディの歴史的背景、現在の状況について、現地で行った聞き取り調査から実態を明らかにする。

多くのバディコミュニティでは、数年前に売春の仕事をやめているが、2009年時点においても、ムラ(Mudha)とラジャプール(Rajapur)のコミュニティではこの仕事が続けられている。それ以来、今日まで筆者は数回に渡り、この地域で聞き取り調査を行い、マイクロファイナンスの活動の進捗状況や、ソーシャル・キャピタルとの関係について調査を行ってきた。その結果を述べる。

第5章「マイクロファイナンスの活動と女性のエンパワーメント」では、第3章と第4章(バディコミュニティ)で述べたフィールドワークの調査結果をもとに、ネパールの女性グループのマイクロファイナンスの活動を総括する。ネパールではマイクロファイナンスの活動は、ヤギや豚などの家畜の飼育や野菜の栽培、店をもつなどによる所得創出(income generation)というよりも、一般的には貯蓄活動を通して、災害や家族の事故、病気などの不測の事態に備えたり、食糧や子供の教育費、冠婚葬祭の費用、出稼ぎの支度金に充てたりするような生活上の不安を取り除く目的で行われているケースが多いという調査結果を明らかにする。

次に、聞き取り調査結果の総括として、マイクロファイナンスの活動実態、カーストやジェンダー規定による職業と労働、識字率の地域的・ジェンダー別による差異とその変化、健康・保健衛生の現状、結婚の慣習（婚姻のタブー、ダウリー）、穢れの観念：チャウパディシステム、ジェンダーと階層における差別・暴力、さらに地域間の相違と女性グループの活動の発展について等、考察する。マイクロファイナンスの活動のために行うミーティング自体がメンバーの抱える悩みや問題を話し合い、情報交換を行う場として活用することによって、自己主張や意思決定などに関わる意識の向上につながるという効用を挙げる。

第6章「社会開発におけるマイクロファイナンスの活動とソーシャル・キャピタルとの関係」では、フィールドワークを通してネパールの女性グループによるマイクロファイナンスの活動におけるソーシャル・キャピタルの社会的効果や、それらが社会開発にどのような役割を果たすのか、すなわち、カースト制度の文化の残る階層社会のなかで、ソーシャル・キャピタルが、コミュニティの規範なのか、女性グループのメンバー間の信頼関係に基づく結束力なのか、グループのリーダーと村の行政とのコネクションの強さ（ネットワーク）なのか、より効率性の高い、持続的な開発に結び付けることができるのか、明らかにする。

終章は、ソーシャル・キャピタルの協調行動と社会開発との有用性について、構造・制度や組織の連携がうまく図れているか、参加型開発の担い手となり、一人一人が潜在的に持っている能力や行動力が発揮できる社会開発につながっているかについて考察し、本研究の射程と今後の課題について述べる。

ネパールの構造的な問題であるカースト、ジェンダー、地域間格差の課題を解決していくためには、女性グループの活動にみられるようにグループで問題を共有し、連帯感を持つことにより改善、改革へのエネルギーを生み出し、エンパワーメントに繋げ、個人、組織、社会など包括的にそれぞれが向上していくことが重要であると思われる。マイクロファイナンスの活動は、一人ひとりが潜在的に持っている能力や行動力が発揮でき、その力が醸成されることにより、平等で公平な社会の構築が可能となると思われる。それはまた、所得の増加、生活環境の改善、子供の就学率の向上に効果をあげ、個々人の自立と能力開発等の内発的な発展となり、女性の地位向上のみならず、生活文化の向上や社会開発にとって大きな役割を果たすことになると思われる。

#### 参考文献

- 1) 稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル―「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』生産性出版、2007年。
- 2) 坂田正三「第1章 ソーシャル・キャピタルとは何か」国際協力事業団・国際協力総合研修所『ソーシャル・キャピタルと国際協力―持続する成果を目指して（総論編）』2002年。
- 3) 吉田秀美「第6章 貧困削減におけるマイクロファイナンスとソーシャル・キャピタル」国際協力事業団・国際協力総合研究所『ソーシャル・キャピタルと国際協力―持続する成果をめざして（事例分析編）』2002年。
- 4) Dowla, Asif “Building Social Capital by Grameen Bank,” *Grameen Dialogue*48, 2001.